

株式の状況 (2022年9月30日現在)

発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式の総数	20,111,598株
株主総数	3,721名
大株主	

株主名	持株数	持株比率
タイガー興産有限会社	1,965 千株	9.8 %
タイガース取引先持株会	1,712	8.6
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,059	5.3
株式会社三菱UFJ銀行	979	4.9
澤田 宏 治	888	4.4
株式会社京都銀行	776	3.9
T.P.C持株会	705	3.5
INTERACTIVE BROKERS LLC	582	2.9
タイガースポリマー従業員持株会	579	2.9
澤田 裕 治	480	2.4

(注) 持株比率は、自己株式(206,304株)を控除して算出し、小数点第2位以下を切り捨てて表示しております。

所有者別株式分布状況

個人・その他	8,888,977株 (44.2%)
金融機関	4,499,619株 (22.4%)
その他国内法人	4,936,405株 (24.5%)
外国人	1,325,503株 (6.6%)
証券会社	254,790株 (1.3%)
自己名義株式	206,304株 (1.0%)

株主メモ

SHAREHOLDER MEMO

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定める日
定時株主総会	毎年6月開催
公告方法	電子公告 https://tigers.jp/ ただし、電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京証券代行株式会社 東京都千代田区神田錦町三丁目11番地
郵便物送付先・連絡先	〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 東京証券代行株式会社 事務センター ☎0120-49-7009 ※取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。
住所変更・単元未満株式の買取・買増等のお申し出先	お取引口座のある証券会社にお申し出ください。ただし、特別口座に記録された株式に係る各種手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である東京証券代行株式会社にお申し出ください。
未支払配当金のお支払い	株主名簿管理人である東京証券代行株式会社にお申し出ください。

会社の概要 (2022年9月30日現在)

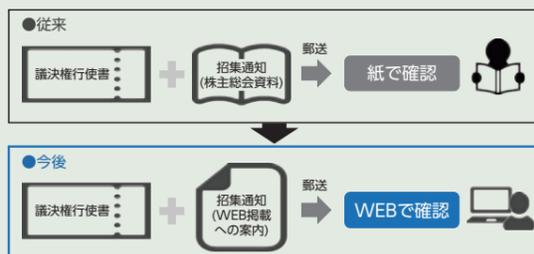
商号	タイガースポリマー株式会社 TIGERS POLYMER CORPORATION
設立年月日	1948年12月20日
本店所在地	大阪府豊中市新千里東町一丁目4番1号
資本金	4,149,555,676円
従業員数	連結：2,036名 個別：576名
事業の内容	合成樹脂、ゴム及びそれらの複合資材をもとに、ホース、ゴムシート、成形品、その他金型などの製造販売

役員 (2022年9月30日現在)

代表取締役社長	澤田 宏 治
代表取締役会長	渡辺 健太郎
常務取締役	木戸 俊 明
常務取締役	植田 英 司
取締役	井上 宏 章
取締役(社外)	河本 高 希
監査役	田村 洋 一
監査役(社外)	大川 治
監査役(社外)	釜 中 利 仁

株主総会資料の電子提供制度について

2022年9月1日施行の改正会社法により、株主総会資料の電子提供制度が開始されました。本制度により、株主総会資料は原則当社ホームページ等のウェブサイト上でご確認頂くこととなります。電子提供制度とは、2023年3月1日以降に開催される株主総会にかかる株主総会資料を、自社ホームページ等のウェブサイトに掲載し、株主さまに対し当該ウェブサイトのアドレス等を書面で通知することで、株主総会資料を提供することができる制度です。電子提供制度は、上場会社に対して強制適用されることから、2023年3月1日以降に開催される株主総会から適用され、株主さまのお手元には、ウェブサイトへのアクセス方法等を記載した簡易な通知書面のみをお届けすることになります。



2023年3月1日以降に開催される株主総会において、株主総会資料の書面での受領をご希望される株主さまは、株主総会の基準日までに、「書面交付請求」のお手続きをお取り頂く必要があります。

株主総会資料の電子提供制度に関するお問い合わせ先  
東京証券代行株式会社 ☎ 0120-79-9001



証券コード: 4231

# 第81期 中間報告書

2022年4月1日から2022年9月30日まで

株主・投資家の皆さまへ

TOP MESSAGE



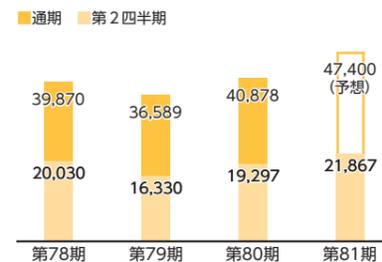
代表取締役社長

澤田 宏治

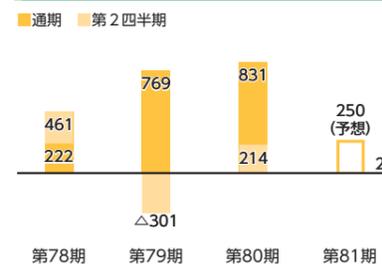
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、第81期中間報告書(2022年4月1日から2022年9月30日まで)をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。当社は、1938年にゴムホース・工業用ゴム製品のメーカーとして創業しました。創業時より培ってきた、合成樹脂とゴムを材料に、「3つの技術(ホース、ゴムシート、モールド(成形品)を作る技術)」を使い、「4つの市場(家電、自動車、土木・建築・住宅、産業資材)」に販売、バランスの取れた経営戦略を構築し、ニッチな市場で高いシェアを獲得することを基本方針としております。さらには、「独自の技術で開発した機能部品を世界の市場に提供する」という方針に基づき、積極的な研究開発投資により、多種多様な「製品開発能力」並びに「性能解析能力」を高め、独自性の強い新製品を世界の市場に広く提供しております。また、「信念ある柔軟性」という社是のもと、時代の流れを着実に捉えながら、広い視野と見識を持って変化に向き合える人材の育成に専心するとともに、損得以前にまずは善悪を基準に自分たちが成すべきことは何かを定め、徹底した顧客指向によって、株主の皆さまや社会からの期待と信頼に応える企業として、さらなる飛躍を図っていきたくと考えております。なお、中間配当金につきましては、1株につき6円とさせていただきます。株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2022年12月

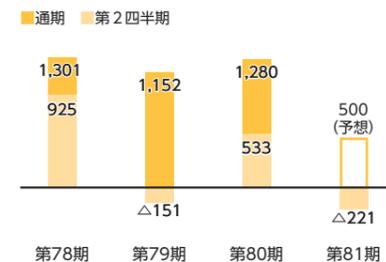
売上高 (百万円)



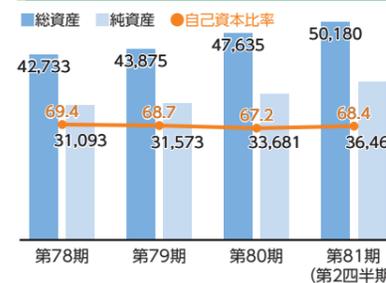
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益又は純損失 (百万円)



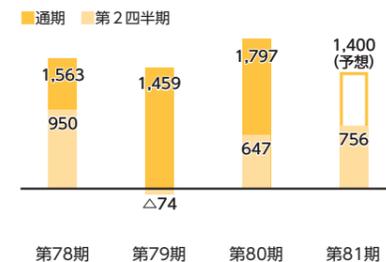
営業利益又は営業損失 (百万円)



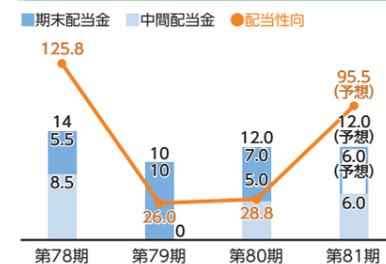
総資産 (百万円)・純資産 (百万円)・自己資本比率 (%)



経常利益又は経常損失 (百万円)



配当金 (円)・配当性向 (%)



日本

自動車部品・ゴムマット類・家電用ホース・ゴムシート類の販売が増加し、売上高は10,400百万円（前年同四半期比553百万円5.6%増加）となりました。原材料費や人件費に加えて、輸送費等の諸経費の増加により、セグメント利益（営業利益）は121百万円（前年同四半期比151百万円55.5%減少）となりました。

米州

米国では、自動車部品は、販売の減少や原材料費の増加に加えて、円安による為替換算上の影響があり、増収効果はありましたが、費用の円換算額も増加し、大幅な減益となりました。産業用ホースは、北米の景気回復並びに販売価格改定の効果により、増収・増益となりました。メキシコの自動車部品は、販売が増加した一方、原材料費が増加したことにより、増収・減益となりました。その結果、売上高は8,661百万円（前年同四半期比1,823百万円26.7%増加）、セグメント損失（営業損失）は507百万円（前年同四半期はセグメント損失39百万円）となりました。

東南アジア

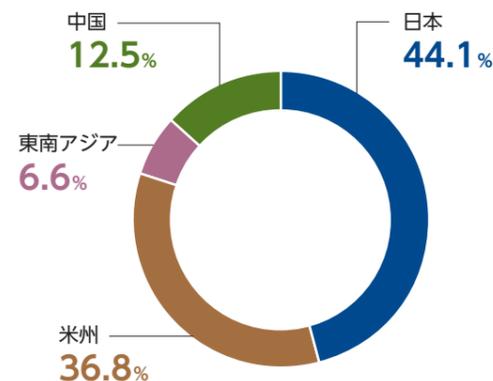
タイでは、自動車部品の米州向け販売が減少した一方、国内向け販売が増加したことで、増収・増益となりました。マレーシアでは、家電用ホースの販売が増加したことで、増収・増益となりました。その結果、売上高は1,562百万円（前年同四半期比262百万円20.2%増加）、セグメント利益（営業利益）は114百万円（前年同四半期比56百万円98.0%増加）となりました。

中国

中国では、家電用ホースと自動車部品の販売が減少したことで、売上高は2,943百万円（前年同四半期比94百万円3.1%減少）となりました。また、原材料費の増加もあり、セグメント利益（営業利益）は10百万円（前年同四半期比187百万円94.5%減少）となりました。

（注）地域別の売上高及び営業損益は、地域間取引消去前のものです。

売上高構成比



トピックス

ポリ塩化ビニール製ダクトホース・透明チューブにバイオマス材料を採用

- ✓ 当社は、バイオマス材料を使用したポリ塩化ビニール（PVC）製ダクトホースと、透明チューブを開発しました。同様のホースやチューブでバイオマス材料を採用したのは、当社が国内初となります。
- ✓ 当社では、これまで省エネルギー化や再生可能エネルギーの使用など、生産工程における環境対応を進めておりましたが、製品でのバイオマス材料の採用は今回が初めてとなります。
- ✓ SDGsの推進など、企業における環境への対応がますます重要となり、グリーン調達を拡大することを見据え、製品化に踏み切りました。今後もこのような環境に配慮した製品のラインナップを増やしていき、社会の持続的な発展・成長に向け「環境・社会への貢献」に取り組んで参ります。

【原材料の一部に生物由来の素材を使用】

- 今回開発したのは「タイダクトホースGL-BM型」、透明チューブ「メディールチューブV580C-BM」。
- 使用している可塑剤を、生物由来のものに切り替えたことにより、「タイダクトホースGL-BM型」の製品重量に占めるバイオマス材料の割合は10%、「メディールチューブV580C-BM」については同45%となり、日本有機資源協会のバイオスマークを取得しております。
- 「タイダクトホースGL-BM型」は寸法によって5品目あり、内3品目については在庫を持って販売し、静岡工場にて生産をしております。
- 「メディールチューブV580C-BM」は寸法が10品目あり、全サイズを在庫。栃木工場にて生産をしております。



「タイダクトホースGL-BM型」



「メディールチューブV580C-BM」

※本件につきましては、本年7月6日付日刊工業新聞で紹介頂いております。

グローバルな生産・供給体制を構築

タイガースポリマーグループでは、国内外に生産拠点・販売拠点・開発拠点を展開し、日本国内の事業所及び国内・海外の子会社との有機的なネットワークを形成することにより、グローバルな生産・供給体制を構築しています。

- 01 本社
- 02 東京支店
- 03 名古屋支店
- 04 大阪支店
- 05 広島支店
- 06 栃木工場
- 07 静岡工場
- 08 岡山工場
- 09 開発研究所
- 10 購買部
- 11 Tigerflex Corporation (米国)
- 12 Tigerpoly Manufacturing, Inc. (米国)
- 13 Tigerpoly Industria de Mexico S.A. de C.V. (メキシコ)
- 14 Tigerpoly (Thailand) Ltd. (タイ国)
- 15 Tigers Polymer (Malaysia) Sdn. Bhd. (マレーシア)
- 16 杭州泰賀塑化有限公司 (中国)
- 17 広州泰賀塑化有限公司 (中国)
- 18 武庫川化成株式会社 (兵庫県)
- 19 高槻化成株式会社 (大阪府)
- 20 タイガース工販株式会社 (兵庫県)



研究・開発

独自性の高い新製品の提供で、市場ニーズを先取り持続可能な社会へ貢献

当社は、開発体制の強化を最重要課題として、技術開発に力を注いでいます。ゴム・樹脂製品を開発するための基本技術を全て自社で保有しているため、開発スピードが速く、独自性の強い新製品を常に提供することで市場から高い評価を得ています。また、当社は開発した製品の性能解析能力についても高い評価を頂いており、自動車メーカーからの信頼も高く、様々な部品を提供しております。

新技術を用い、カーボンニュートラルに向けた電動車用部品や産業用ホース、理化学用・食品用チューブ、インフラ向けゴムシートといった製品の開発を通じ、市場ニーズを先取りするだけでなく、持続可能な社会に貢献できる製品の研究開発に挑戦し続けています。



産業用ホース



理化学用・食品用チューブ



ゴムシート

電動車用部品



バッテリー冷却システム



エキスパンションタンク



FCV用エアクリナー